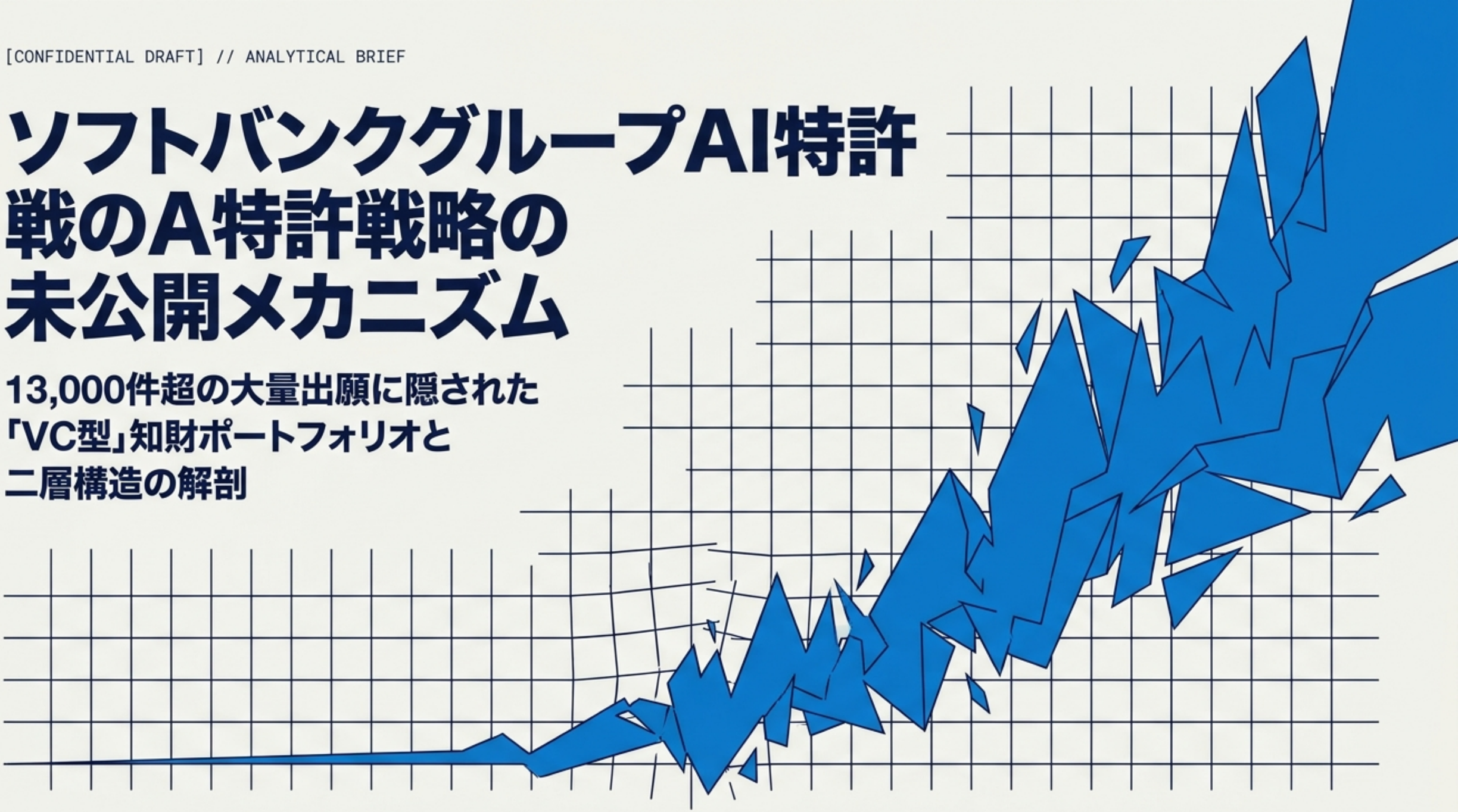
[CONFIDENTIAL DRAFT] // ANALYTICAL BRIEF

ソフトバンクグループAI特許戦のA特許戦略の未公開メカニズム

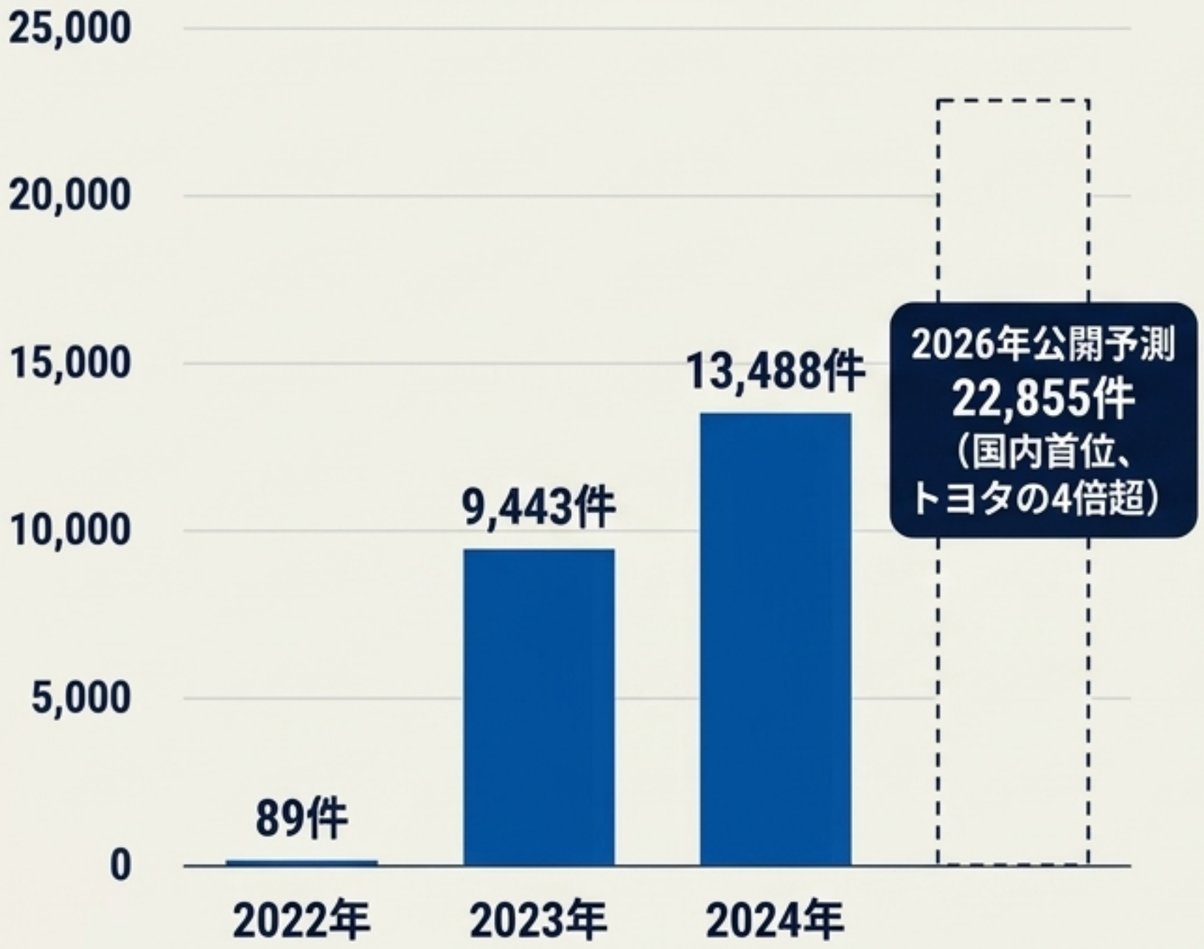
13,000件超の大量出願に隠された「VC型」知財ポートフォリオと二層構造の解剖



Gemini Notebook

年間89件から1万3,000件超への異常な飛躍

SBG 国内特許出願件数の推移



WIPO 生成AI公開特許ファミリー数 世界ランキング（2024〜2025年）

1位	ソフトバンクG（日本）- 2,985 ファミリー
2位	Tencent（中国）- 2,074 ファミリー
3位	Ping An（中国）- 1,564 ファミリー
4位	Baidu（中国）- 1,234 ファミリー
8位	Alphabet / Google (米国) - 1,083 ファミリー

Gemini Notebook

年間1万件を量産する3つのオペレーション基盤

STEP 1: 発明の民主化 (Input)



- 全社員動員で累計21万件のアイデア収集
- 孫正義氏個人でも2023年に1,008件を発明

STEP 2: AIによる明細書定型化 (Processing)



- 生成AI関連出願の85.3%がタイトル『SYSTEM』1語
- 共通図面の使い回しと超短請求項による圧倒的効率化

STEP 3: 国内優先権を利用した2段階権利化 (Output/Refinement)



- 初期は広く網を張り、先願主義で出願日を確保
- 出願後1年以内に有望案件のみ数万文字規模で肉付け

Gemini Notebook

深層技術（Deep Tech）ではなくビジネスモデルの先占

IPC技術分類 鍖概率の11,870AI特利

G06Q（ビジネス方法・商取引）
10,776件 (90.8%)

主要キーワード出現率

「generate / generating」: 36.9%

「neural network / deep learning」: わずか0.3%

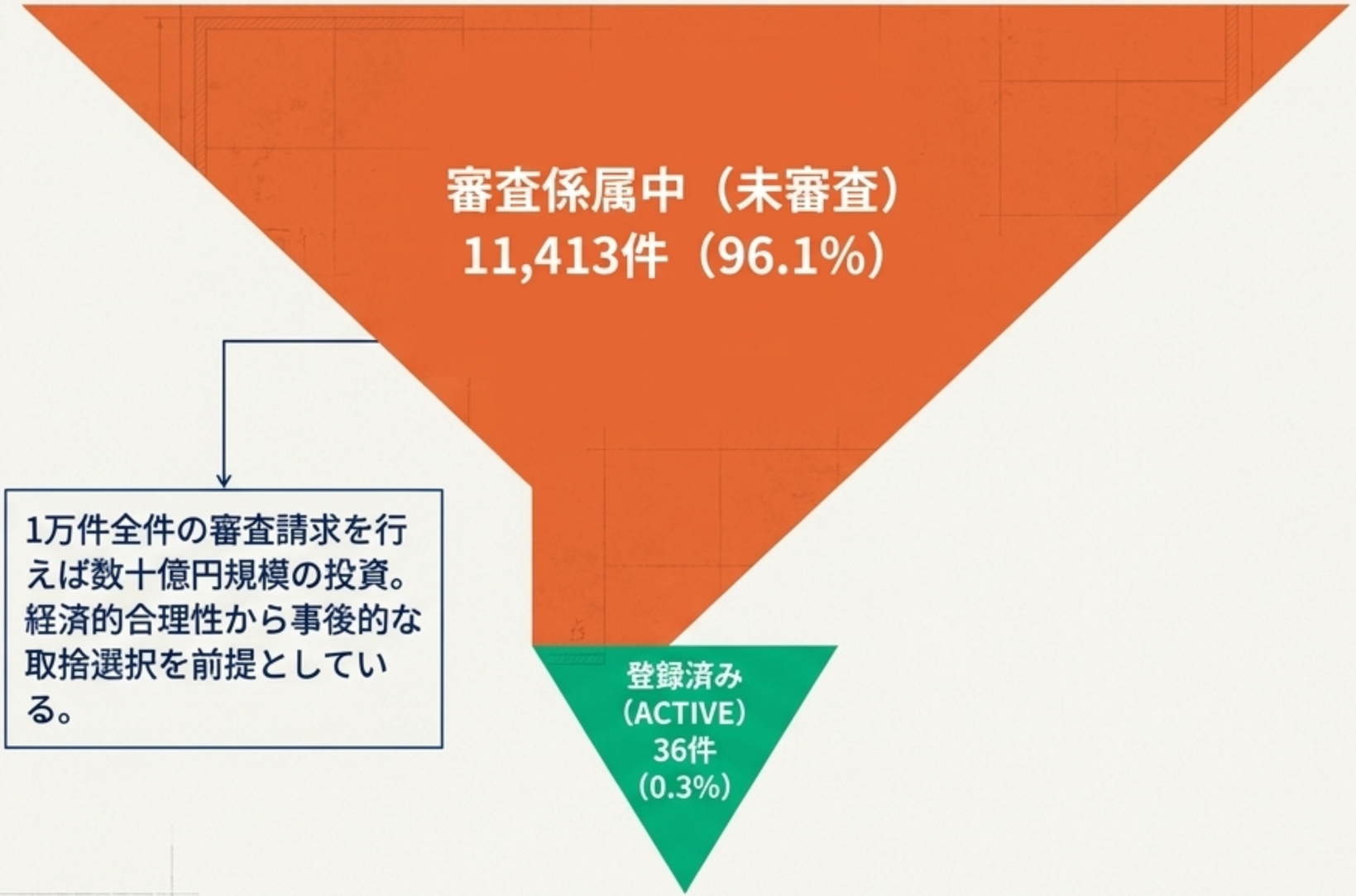
戦略的インサイト

「LLMで文書を生成するシステム」や「対話インタフェース」など、特定の業種×ChatGPTの使い方に特化したビジネスアイデア特許が本丸。

G06N（機械学習・AI核心技術）895件（7.5%）

Gemini Notebook

審査未請求96.1%、特許取得率わずか0.5%のパラドックス



1万件全件の審査請求を行えば数十億円規模の投資。経済的合理性から事後的な取捨選択を前提としている。

公開年別の特許取得率

2025年公開分の取得率は約0.5%

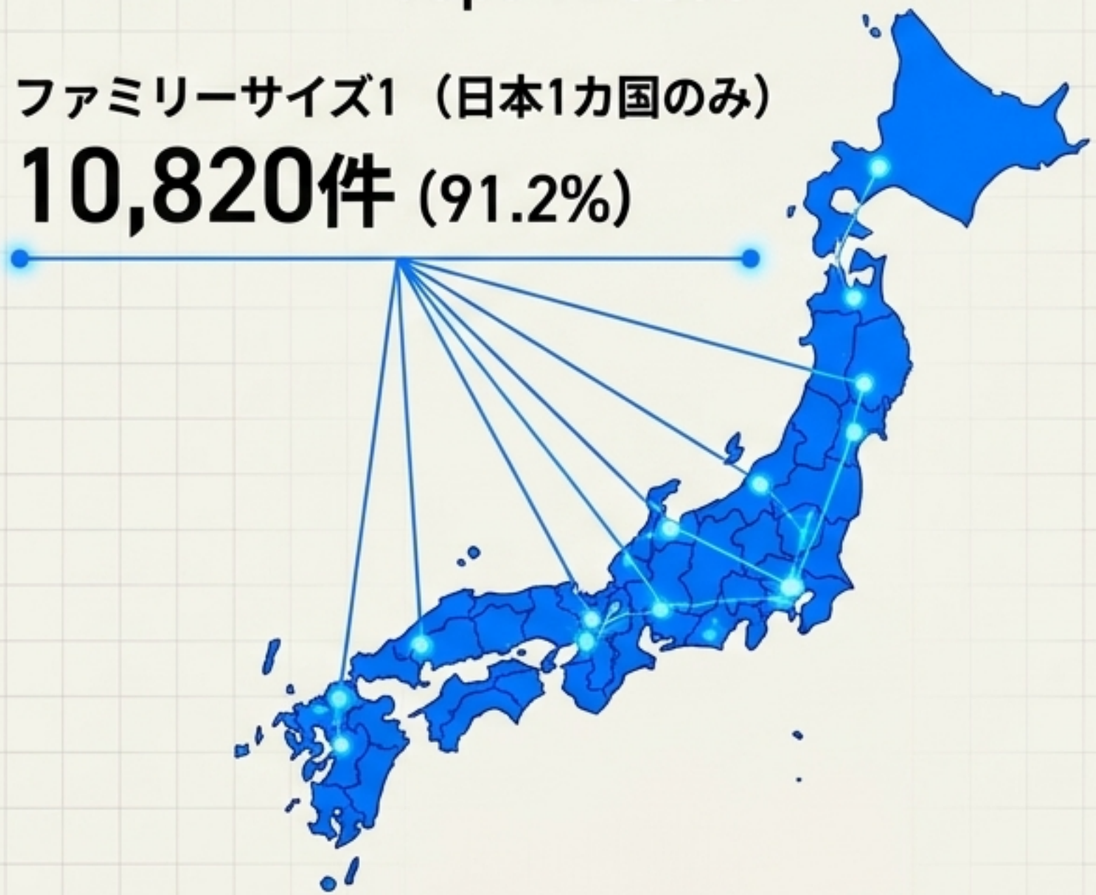
国内ベンチマーク

- 日本企業の一般的な特許取得率: 40〜60%
- 特許庁全体の特許査定率（2025年）: 76.5%

Gemini Notebook

91.2%が日本国内単独出願という極端な偏重構造

‘Japan Focus’



ファミリーサイズ1（日本1カ国のみ）

10,820件 (91.2%)

‘Global Neglect’



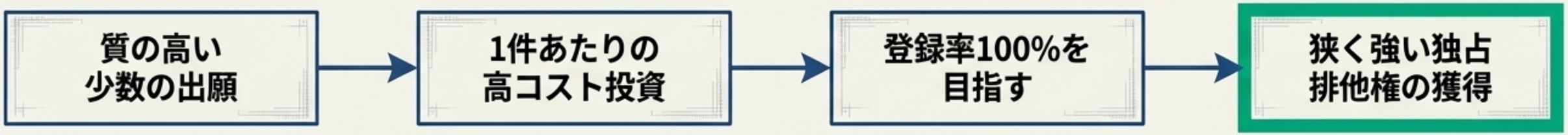
- PCT国際出願：311件（2.6%）
- 米国（個別出願）：180件（1.5%）
- 欧州（個別出願）：118件（1.0%）
- 中国（個別出願）：97件（0.8%）

実務上の示唆：特許の属地主義により、91.2%を占める国内単独出願は海外のAI企業・製品に対する直接の権利行使力を持たない。18カ月後の公開によるフリーライド（技術流出）の懸念。

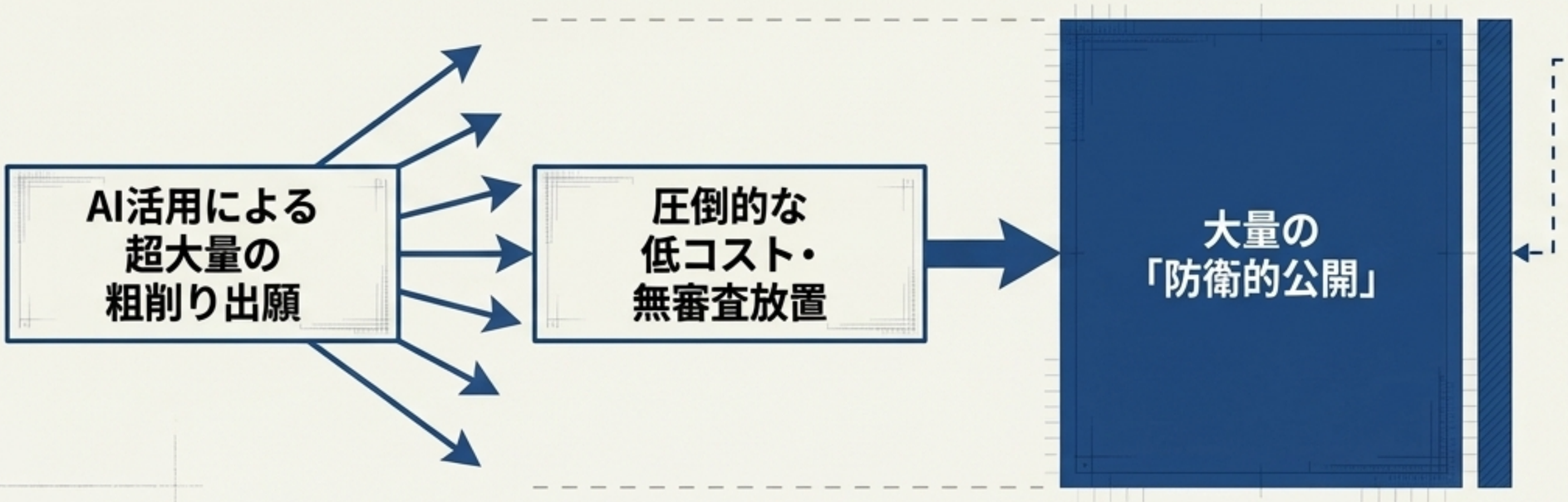
Gemini Notebook

権利化ではなく「防衛的公開」を狙うVC型ポートフォリオ

Path A 従来型（狙撃手アプローチ）：確実に権利化を狙う



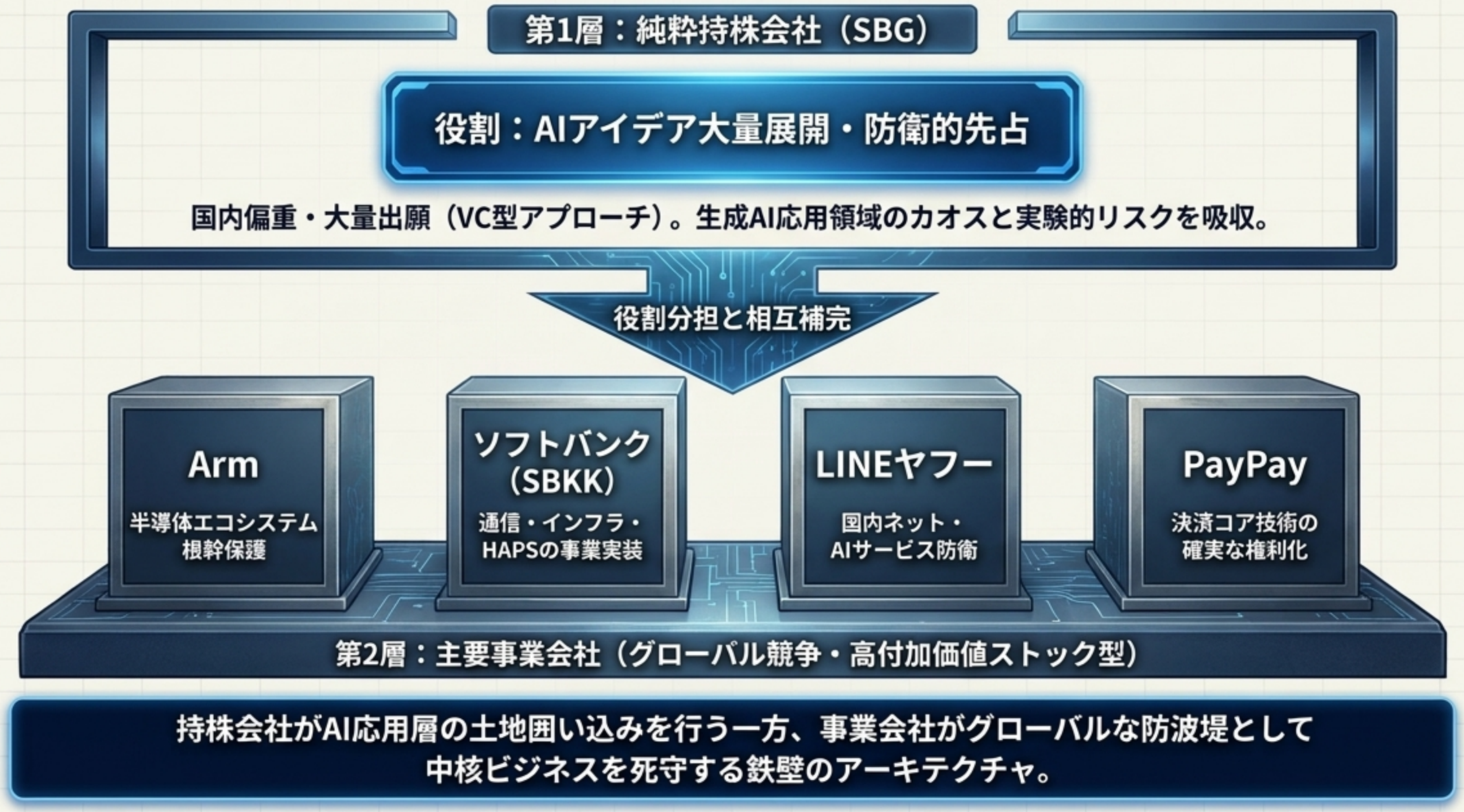
Path B SBG型（網打ちアプローチ）：参入障壁構築と事後選別



最大の狙い：未審査のままでも出願から18カ月月で「先行技術文献」として公開される。これにより、自社が権利化せずとも、他社が同様の生成AIビジネス特許を取得することを阻む強固な『参入障壁』となる。

Gemini Notebook

国内偏重の持株会社を補完する「知財ポートフォリオ二層構造」



Gemini Notebook

Diagnostic Command Center

グループ主要各社における知財体制と役割の機能分化

法人名	知財戦略・役割	出願・保有規模	重点技術領域
ソフトバンクグループ（SBG）	先願による参入障壁構築（VC型）	2026年公開 22,855件	生成AI応用（G06Q）
ソフトバンク（SBKK）	現場課題からの事業実装重視	約2,200件保有	5G/6G SEP, HAPS, AI-RAN
Arm	エコシステムの根幹保護	世界約8,600件保有	CPU/GPU アーキテクチャ
LINEヤフー	OSS公開と特許保護の両立	登録 4,482件	コマース・マーケティングAI

Gemini Notebook

グローバル展開と中核技術を担保する事業会社の強固な権利網



Arm

世界 約8,600件保有

「AI Silicon Trinity」戦略。対Qualcomm訴訟などを含む厳格なライセンス・訴訟対応により、半導体エコシステムの根幹知財を保護。



ソフトバンク (SBKK)

HAPS関連 世界約670件

「特許は守りではなく攻め」。6G時代の標準必須特許（SEP）確保や、成層圏通信（HAPS）、次世代電池など実事業に直結する権利化。



LINEヤフー

累積特許登録 4,482件

パテントスコア国内トップクラス。高次元データ検索（NGT）等のオープンイノベーション推進と、偽造品検知AIの実装。



PayPay

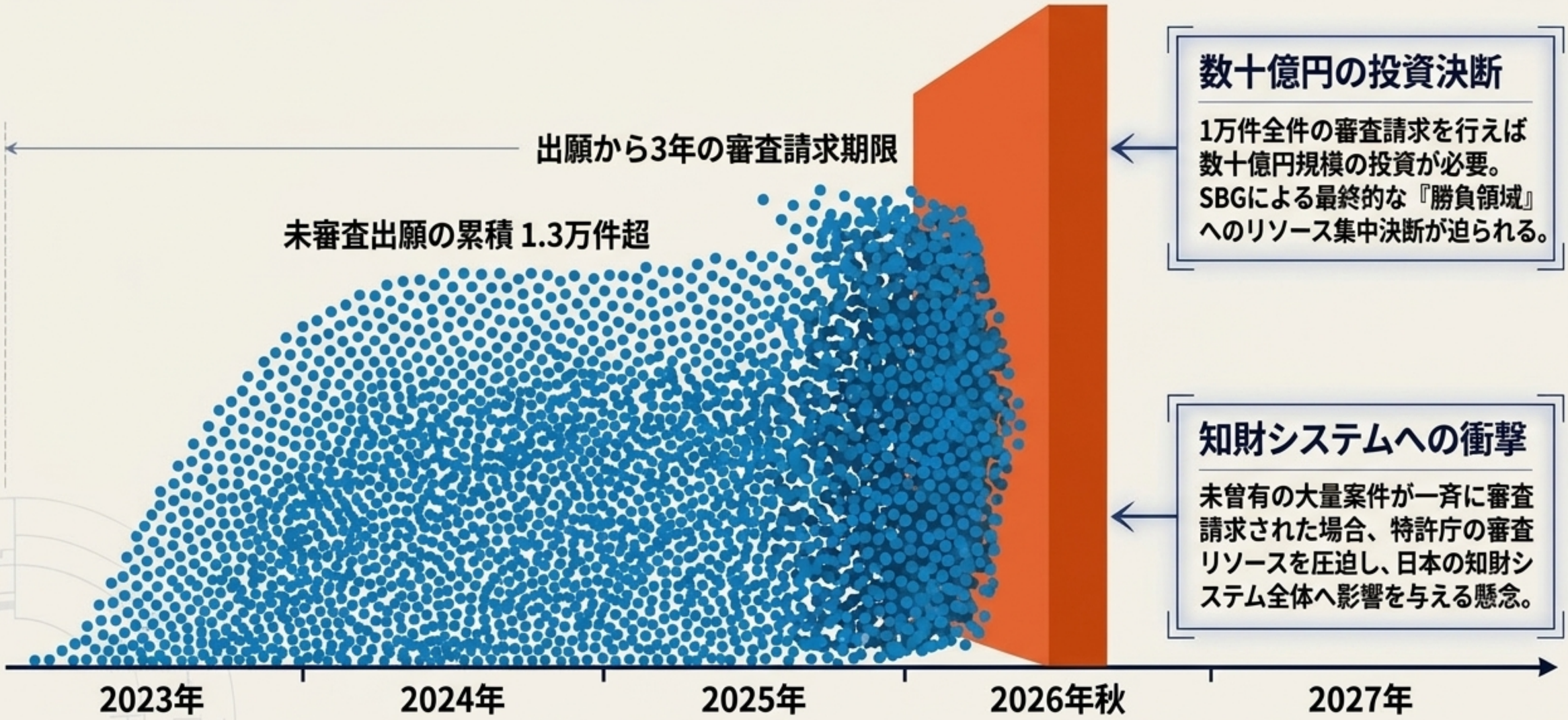
2026年登録 160件

オフライン決済や不正監視システムなど、実サービス機能に直結した極めて着実で高水準な権利化。

Gemini Notebook

Diagnostic Command Center

2026年秋に到来する「審査請求期限のクリフ（絶壁）」



数十億円の投資決断

1万件全件の審査請求を行えば数十億円規模の投資が必要。SBGによる最終的な『勝負領域』へのリソース集中決断が迫られる。

知財システムへの衝撃

未曾有の大量案件が一斉に審査請求された場合、特許庁の審査リソースを圧迫し、日本の知財システム全体へ影響を与える懸念。

Gemini Notebook

AGI時代に向けた前例のない知財ランドグラブ（土地囲い込み）

01

競合（NTT/KDDI）とは異なるゲーム

旧来の自社内製型知財エンジンの構築ではなく、AIを駆使した圧倒的スピードで「AIのビジネス応用領域」を先占・網羅する陣取り合戦を実行している。

02

「バグ」ではなく「仕様」としての防衛

0.5%の極端に低い特許登録率と国内偏重構造は、失敗ではなく、最低限のコストで他社の特許取得をブロックする「先行技術化」を狙った計算されたVC型戦略である。

03

鉄壁の「二層構造」アーキテクチャ

持株会社（SBG）が混沌とした最先端の実験的リスクを吸収する一方、事業会社（Arm, SBKK等）が伝統的かつ強固なグローバル知財の堀を維持し、グループ全体を死守する。

Gemini Notebook